

双子座ラグナ

ケンドラ ウパチャヤ	トリシャダ ウパチャヤ	トウシュタナ 敏感な中立	Asc トリコーナ ケンドラ
トリコーナ	双子座ラグナ		敏感な中立 マラカ
ドウシュタナ 敏感な中立			トリシャダ ウパチャヤ
ケンドラ マラカ	ドウシュタナ トリシャダ ウパチャヤ	トリコーナ	ケンドラ

機能的吉星	金星
機能的凶星	太陽、火星、木星
中立	太陽
マラカ	月(強くない)
備考	牡羊座と同様、木星と土星が接合している場合、木星の吉意が失われる 木星は2つのケンドラを支配して機能的凶星となる 水星が吉星に分類されていないことに注目

双子座ラグナは、ラグナロードの水星が同時にケンドラを支配することにより、吉星はケンドラを支配すると凶星化する原理によって、2つのケンドラを支配することから、まず、機能的に凶星化して、その後、ラグナを支配して、吉星化するため、ラグナ(1室)の支配星であるにも関わらず、文句なしの吉星に分類しない占星家もいます。これは双子座ラグナ、乙女座ラグナ、射手座ラグナ、魚座ラグナの変通星座のラグナに共通する特徴です。

ラグナロードが同時に4室を支配する為、内的生活やプライベートを重視する人です。一方、ラグナロードは10室で減衰するため、職場コミュニティーでの職業的、社会的地位を堅固に築きにくい配置と考えられます。

一方、双子座ラグナの人は5室を芸術の表示体である金星が支配するため、クリエイターとしての才能があり、その5室支配の金星が10室で高揚するため、芸術家、クリエイターとして大成する可能性を秘めています。

例えば、典型的な事例として、映画監督、プロデューサーのスティーブン・スピルバーグは双子座ラグナで5室に定座の金星、木星、月が在住し、才能あふれるクリエイターであることを示しています。

		Ra	Asc
	Steven Spielberg		SaR
	1946-12-18 18:16 Cincinnati, Ohio		
Ma Su	Ke Me	Mo Ju Ve	

Su Ve	Ke		Asc
Me	Ravi Shankar		Ju
	1920-4-7 am10:13 Varanasi, India		SaR
	Mo	MaR Ra	

然し、そのスピルバーグは学生時代から趣味で映画制作を行い、映画スタジオに毎日のように通いつめて、とうとうスタジオ内に彼の部屋を作ってしまったというエピソードがあります。彼が優れたクリエイターの卵であったから許されたことで、本来、職場コミュニティ内に個人の趣味の空間をつくることは職場にとっては困った事態です。5室は仕事の10室から見て8室に該当し、5室から見ると、職場は6室であり、見下して軽んじる空間です。クリエイターは自分の才能を使って、創作活動に没頭すればよいのであり、就業時間も規則やルールも無視しがちなプライベートな活動である為、職場コミュニティを軽んじて、そのルールに従わない傾向があります。

双子座ラグナの人は木星が7室を支配し、同時に10室を支配する為、人生で出会う重要な他者（パートナー）とは、職場の関係者であることがしばしばです。スピルバーグにおいて、これは確認できます。

7室と10室の社会性を表わすハウスの支配星である木星が2室で高揚するため、仕事においてはパートナーと共同で家族経営的な事業で成功したりなど、家族やプライベートを重視するのが双子座ラグナと言えます。

他の例として、インド古典音楽・シタール奏者のラビ・シャンカールは双子座ラグナで5室支配の金星が10室で高揚するため、クリエイターの典型的な例です。特に5室も金星も音楽の表示体であるため、ミュージシャンになるパターンが実現しています。

双子座ラグナの場合、火星が6室、11室（6室から6室目）を支配して、火星がトラブル、障害の表示体となります。従って、兄姉（11室）との争いや暴力などで悩むというパターンが見られます。

実際、双子座ラグナで、兄や姉とのトラブルに悩んでいるという事例をいくつか確認しています。